

地域教育
情報紙(27年度)
第2号

颯と流

平成27年7月13日発行
《担当》 富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
小林誠二・渡邊 聡・小俣義一

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

(1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。

(2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

子どもたちの教育は地域全体で担う!!

南都留地域教育推進連絡協議会 理事会・総会・講演会開催

南都留地域教育推進連絡協議会では、6月24日(水)、平成27年度の理事会・総会・講演会を富士河口湖町「富士ふれあいセンター」において開催しました。理事会後に開かれた総会・講演会には121名が出席。総会では、昨年度の事業報告・会計報告・監査報告の後、本年度の役員について、渡邊綱男船津小学校校長を会長とする新役員が承認されました。また、本年度の事業計画・予算については参加者から、「青年会議所の事業の中にも、子供たちの育成にかかわるような取り組みを行い、地域への貢献活動を進めているが、『教育フォーラム』で提案される各種団体からの実践は、これからの地域への貢献の在り方を学ぶことができる。今後も青年会議所として積極的に関わっていきたい。」「『親子教室』など高校の教育活動が、よりよい形で地域への連携へとつながっている。今後も高校で実践している各事業において、地域との連携活動を通じて生徒の健全育成と共に、地域への貢献活動を進めていきたい。」など、多くの意見が活発に出されました。



講演会では、健康科学大学理学療法学科 粕山達也氏を講師に、『子どもの運動発達に必要なこと』と題してご講演いただきました。粕山先生は「子どもたちと学校が抱える問題と解決方法」や「現在の子どもの運動能力」などについて、豊富なデータや、解説に動画を取り入れてご講演いただきました。参加者からは「体の発達時における注意点、改善すべき点など細かに説明され良かった。」「とにかく、体を動かして思いっきり遊ぶことが大切。そのための環境づくりをしていこうと、改めて感じました。全ては子どもたちが幸せに生きられるためにです。」など多くの感想が聞かれました。

講演会では、健康科学大学理学療法学科 粕山達也氏を講師に、『子どもの運動発達に必要なこと』と題してご講演いただきました。粕山先生は「子どもたちと学校が抱える問題と解決方法」や「現在の子どもの運動能力」などについて、豊富なデータや、解説に動画を取り入れてご講演いただきました。参加者からは「体の発達時における注意点、改善すべき点など細かに説明され良かった。」「とにかく、体を動かして思いっきり遊ぶことが大切。そのための環境づくりをしていこうと、改めて感じました。全ては子どもたちが幸せに生きられるためにです。」など多くの感想が聞かれました。



「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」

地域教育「明日の風」

北都留地域教育推進連絡協議会 定期総会・教育講演会

北都留地域教育推進連絡協議会では、7月9日(木)に定期総会・教育講演会を上野原市文化ホール(もみじホール)で開催しました。総会に先立ち、歓迎アトラクションでは秋山中学校全校生徒37人が心のこもった合唱を披露。生徒達の「秋山」に対する様々な思いと「秋山」のすばらしさをオリジナル曲にのせて出席者に伝えました。一生懸命で純粋な歌声に会場は感動の渦に包まれました。

総会では、昨年度の事業報告、会計決算報告・会計監査報告に続き、新役員改選が行われました。新会長を江口英雄上野原市長とする新役員を選出。2年間の新体制がスタートしました。平成27年度の事業計画案および会計予算案では、「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」のスローガンのもと、北都留地域の各種団体・行政、地域住民との連携を図り「望ましい環境づくり」を推進する多くの事業を可決。

また、教育講演会では都留文科大学文学部教授 筒井潤子先生を講師にお招きして、「子どもたちの健やかな育ちを支えるために―“地域ができること、していること”―と題してご講演いただきました。筒井先生からは、「子どもが安心できるのは、周りの人々や環境と波長が合うとき。そのためには大人が力を抜き、リラックスすることが大切」「『何をするか』ではなく『いかにするか』を意識してほしい」と、私たち大人がどのように子どもたちに関わったらいいかについてお話しいただきました。



より速く より高く より強く!!

明日の風 アスリート実技講習会

明日の風アスリートクラブ・北都留地域教育推進連絡協議会主催「明日の風アスリート実技講習会」が、今年度もスタートしました!! 今年、年間7回の講習会を予定しています。第1回は5月9日(土)に行われました。当日はあいにくの雨のため、会場を大月勤労者体育センターに移して開催。小学2年生から中学3年生までの58名が参加しました。ウォーミングアップ後、5名のスタッフの指導のもと、短距離・筋トレ・反復横跳び・立ち幅跳びの各種目にチャレンジ。最後の交流リレーでは、大きな声で声援を送り、さわやかな汗を流しながら、他学年や他校のみなさんとの交流を深めました。

また、6月20日(土)には大月市民総合体育館において、『ホップ』(主催:大月市スポーツ少年団・大月アスリートクラブ・明日の風アスリートクラブ)が開催されました。小学生から大人まで、合計91名が参加。種目は、トランポリン・スポーツ吹き矢・キックターゲット・ストライクアウト・バスケットシュート・陸上5種競技・スーパーエアロピクス教室と多種多様。参加者は思い思いの種目にチャレンジ。親子や友達同士で競い

合い、さわやかな汗を流しながら楽しい一日を過ごしました。

次回『第3回アスリート実技講習会』は10月3日(土)です。多くの方のご参加をお待ちしています!!



～ ふれあい、楽しみそして感じ、自分の夢を育もう～

三遊亭小遊三師匠とふれあう会

5月10日(日)に大月市民総合体育館において「三遊亭小遊三師匠とふれあう会」(北都留地域教育推進連絡協議会(会長：石井由己雄大月市長)主催)が行われました。「ふれあう会」には、来年3月に閉校する小遊三師匠の母校富浜中学校(村上嘉幸校長)の生徒と地元の住民ら約150名が参加しました。

短い時間でしたが、小遊三師匠からは自身の少年時代の思い出や富浜中学校

時代の友人や勉強のこと、部

活動で県大会に出場したこ

となど、時折、会場の笑いを

誘いながらお話いただきました。参加者からの質問にも丁寧に答えていただき、楽しいひとときを過ごすことができました。最後に「1、2年生は来年度から猿橋中学校に通うことになるけれども、これからも頑張してほしい。」と生徒達を激励していただきました。富浜中学校の生徒にとっては、母校への誇りと感謝の気持ちをあらためて実感できた機会となったようです。

三遊亭小遊三師匠



三遊亭小遊三師匠ふれあう会



富士吉田地区小中高連携連絡会議・養護教員部会

富士吉田地区小中高連携連絡会議は、小中高の連携において課題となっている「小1プロブレム」「中1ギャップ」や「中高の連携した生徒理解」等の様々な問題を打開するために平成20年に発足。今年で8年目を迎えます。また、平成22年より養護教員部会を立ち上げ、「不応の児童・生徒の現状と対応について」をテーマに小中高の連携を深めてきました。

5月11日(月)、富士吉田市産業会館において富士吉田市教育委員会教育長・同教育研修所長、各小中高の校長、教育事務所地域教育支援スタッフが出席し、平成27年度の「富士吉田地区小中高連携連絡会議」が開催されました。会では昨年度の報告と今年度の方向性についての検討、また、小中高連携や異校種間交流の取り組み、また各校が抱えている課題について率直な意見交換が行われました。本年度の養護教員部会では昨年度に引き続き「心因性疾患」をテーマに年間2回の学習会と情報交換を行うこととなりました。

6月8日(月)には、20名が参加して第1回養護教員部会を開催。講師の富士・東部保健福祉事務所精神保健福祉相談員 石川一仁 先生から、「心の問題が気になる児童生徒への関わり方や保護者への対応」についてお話いただきました。石川先生は、地域療育コーディネーターや精神保健福祉相談員等の専門職を学校に招集し、事案を検討して役割分担をしながら一緒に対処することが必要であると説明。参加者からは「心の問題が気になる子どもがいたら、問題を見立て、必要に応じて専門機関との連携を図り、早期の対応と支援をしていくことが大切であると改めて感じました。」等、たくさんの感想が寄せられました。第2回は平成28年3月15日(火)に開催の予定です。



第1回 南都留教育相談ネットワーク会議

第1回 南都留教育相談ネットワーク会議

より効果的な地域の青少年支援をめざすネットワークづくり！！

南都留教育相談ネットワーク会議(会長：小林真理子都留児童相談所所長)は、「青少年の育成にかかわる、教師やカウンセラー、児童相談所・教育相談所の職員等が、それぞれの経験や専門性を生かしながら情報や技術を共有し合い、連携して学習会や相談活動・情報提供・研究活動を行い、公正中立な立場でのより効果的な地域の青少年支援」を目指し、平成13年度に設立されました。

7月8日(水)に開催された、平成27年度第1回ネットワーク会議では新たに3名の会員が加わり、23名が参加し今年度の活動計画等について検討。また、研究協議では富士・東部教育事務所SSW(スクールソーシャルワーカー)渡辺実子先生から「これまでのSSWの活動事業と、今後の活動」について発表がありました。SSWとSC(スクールカウンセラー)の違いや、山梨県の現状・児童生徒が抱える問題等、渡辺先生のこれまでの活動を中心に、映像を加えて詳しく説明いただきました。会員からは、それぞれの立場から「子どもを取り巻く問題には、本人だけの問題でなく、家族や学校・地域との関係が大きく関わってくる。」「社会資源の乏しさや社会環境の差も影響する。」などの意見が出されました。また、助言者の先生からは、「子ども・家庭・学校・社会が連携することにより、『地域をどうつくるか』『地域をどう支えていくか』が重要である。」とのアドバイスをいただきました。ネットワーク会議は、年間3回の開催を予定しています。次回は12月9日(水)です。



家族と地域の交流！！

鳴沢保育所 「三世代交流」事業

鳴沢保育所(天野明子所長)では、平成18年度より年長児を対象にした「三世代交流」事業を毎年実施しています。この事業は「伝承遊び」「ほうとう作り」「皮から作るキャベツ入り餃子」など、毎年思考を凝らした行事を行うことで、地域の子育てネットワークを広げるとともに、地域の伝統を次世代につなげることを目的としています。

今年度は、6月13日(土)に保護者参観も兼ねて実施。年長児、保護者、祖父母あわせて63名が参加しました。三世代で散歩をしながら、普段見過ごしている地域の石像物(萬霊塔、六地藏、道祖神)等の史跡を探索。また、同行した郷土史研究会の方からその史跡の由来について説明を受けました。特に六地藏では、地獄絵図を見ながら「嘘をつく舌を抜かれるよ。」「親

不孝をすると、ずっと石積みをしなればいけないんだよ。」と言われると、子どもたちはおびえた表情も見せましたが、皆真剣に話を聞いていました。

参加者からは、「来て良かった。」「いい話を聞くことができて良かった。」などの感想が寄せられました。鳴沢保育所では、家族のつながりと地域の交流・連携をより深めていく『三世代交流』事業を、今後も継続して実施していく予定です。



「一人一人に合った支援のために!!」

南都留特別支援教育研究会学習会

南都留特別支援教育研究会(会長:下吉田第一小学校志村伸校長)が、今年度の活動をスタートしました。今年度の事務局は下吉田第一小学校が担当します。

5月18日(月)に行われた第1回研究会では会員の自己紹介に続き、今年度の活動計画、「山梨県特別支援教育研究大会」の役割分担等について話し合われました。

また、7月2日(木)には第2回研究会を南都留教育会館で開催。まず、「青い麦の子大会」の日程、役割分担等を決定しました。その後の学習会では、8月6日(木)の「山梨県特別支援教育研究大会」で発表する内容について、ブロックごとに分かれて検討会が行いました。ふじざくら支援学校とやまびこ支援学校の地域支援コーディネーターをアドバイザーにお招きして、授業づくりおよび指導案を検討しました。第3回研究会は8月27日(木)を予定しています。



やまびこ支援学校 スポーツフェスティバル

県立やまびこ支援学校(藤川健校長)では「第36回スポーツフェスティバル」を5月30日(土)に開催。小学部と中等部の児童・生徒あわせて58名と、保護者および学校関係者が参加して、同校の体育館とグラウンドにおいて実施されました。

午前中は、小学部・中等部のエールの交換の後、それぞれ種目発表が行われました。小学部の「かぎをみんなであつめよう」では、マットや跳び箱等を使って、それぞれの実態に応じたサーキット運動を披露。また、中学部の「One for all All for one ~心を一つに~」では、グループに分かれて集団行動を披露しました。皆、元気に最後まであきらめずに、一生懸命取り組んでいました。まとまりの取れた行進には、観客の方々も感動。大きな拍手が送られました。午後の部では、交流種目として、「フォークダンス」「玉入れ」を楽しみ、学年や地域を越えて互いに交流を深めることができました。



ふじざくら支援学校 オープンスクール

県立ふじざくら支援学校(元木哲哉校長)の「オープンスクール」が6月18日(木)に実施されました。昨年度までは休日を利用して開催しましたが、参加者に普通の教育活動や生徒の様子を直に見学していただくために、本年度は通常の授業の時間帯の中で実施。当日は約85名の参加がありました。

学校の概要説明に続いて、「校内案内」や「授業見学」が行われました。また、特別支援教育に関する専門書やふじざくら支援学校で使用している教科用図書、教材、自助食器等の展示、各学部の作品展示、

高等部の修学旅行や校内実習・現場実習の様子も紹介されました。

ふじざくら支援学校では各学部で連携を図り、様々な児童・生徒の障害や発達に応じた教育課程を編成し子どもたちに対応しています。また、同校地域支援部では、「教育相談」「授業体験」「訪問支援」「専門書の貸し出し」「視覚障害児・聴覚障害児への支援」等の支援を行っています。特別支援教育に関する様々な相談については随時対応しますので、お気軽にご連絡ください。連絡先 0555-72-5161(地域支援部)



ふじざくら支援学校
学校案内



〒400-0001
山梨県南都留郡上野原町東山梨1-1-1
TEL 0555-72-5161
FAX 0555-72-5164
E-MAIL fuji@fujizakura.ac.jp
URL http://www.fujizakura.ac.jp

南都留地区の社会教育・公民館活動のさらなる充実を目指して!!

南都留地区社教委連・公連 定期総会 合同研修会

南都留地区社会教育委員連絡協議会・南都留地区公民館連絡協議会は、5月15日(金)に富士吉田市のふじさんミュージアム会議室において、定期総会および合同研修会を開催。定期総会では、昨年度の事業報告・決算報告と今年度の事業計画・予算案の審議が行われました。また、新役員が承認され、社教委連会長に勝俣源一氏(富士吉田市)、公連会長に平井勝典氏(都留市)が就任しました。



続いて、山梨県教育庁社会教育課課長 相河竜治氏と甲斐市立双葉西小学校 山本悦子氏を講師にお招きして合同研修会を開催。

「学校を核とした地域の活性化とそのコーディネート」と題して、双葉西小学校での実践事例をもとに、コミュニティー・スクールと学校応援団の活動を通して、

学校と地域の両方を活性化する方法や、学校応援団の具体的な活動、コミュニティー・スクールの成果と今後の展開について講演していただきました。「学

校を中心として地域の活性化を図るためには、社教委連や公連の皆様の協力が必要。これらの活動を通して子どもたちの地域や地元への愛着が深まったり、学びに対する興味・関心が高まったりすることにつながる。」という話に対して、参加者は今後の社教委連・公連の事業や活動の重要性を再認識したようです。

~~~~~

## 子育て支援リーダー・ステップアップ講座

地域での子育てや家庭教育支援の活動を

**積極的に推進できる人材の養成!!**

山梨県では、山梨県立大学との協働により地域の子育てネットワークづくりのための子育て支援リーダーステップアップ講座を開講しています。同講座では、年間10回の講座を計画。支援者同士のネットワークづくりや情報交換などとともに、相談業務、特別支援教育など多様な支援に対応した最新の理論やスキルを学ぶことができます。

第1回および第2回はそれぞれ、6月12日(金)、6月26日(金)に県立大学で開催され、子育て支援関係者、保育士、民生委員、児童委員等約40名が参加しました。

第1回目は、「子育て支援の現在と私たちの課題」について、子育て支援をしていく上での問題点を講座やグループワークを通して考え、解決方法を探究。現在抱えている課題についてそれぞれの立場からの意見交換が活発に行われました。

第2回目は、「家庭教育支援の技術をみがく」というテーマで講義とワークショップが行われました。実際に身体を動かしながら、心身の発育発達を促す遊びの理論と技術を学習しました。参加者は童心に返って自ら楽しむとともに、具体的な実践例を身につけることが出来たようでした。

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841